○報告事項

教育委員会3月臨時会について

○質問項目

1. 教職員人事異動について

司会)

それでは定刻となりましたので、教育長の記者会見を始めさせていただきます。

まず教育委員会3月臨時会で審議いたしました、令和7年4月教職員人事異動について淀谷教育長より報告させていただきます。

教育長)

それでは私の方から、令和7年4月1日付の香川県教育委員会人事異動について、その概要のご説明をいたします。

今回の人事異動でございますけれども、定年延長によりまして、2年に1度の定年退職が生じる年であります。退職者が大幅に増加することから、昨年度に比へまして異動総数が増加しております。

一方で、新規採用者につきましては優位な人材の確保、教員希望者の公平な採用機会の確保などを目的に、年度ごとの平準化を図るとともに、教職員のより一層の働き方改革を推進するために、前年度に引き続き積極的な採用に努めております。

校種別では小中学校においては、各学校が、夢や志を持って生きる子どもたちの心身を支える令和型の質の高い公教育を行うために、校長に適格者42名を登用し、全県的な視野に立って配置いたしました。また、これまで学校を支えてきた退職教職員を再任用職員として任用するとともに、後継者となる人材を、勤務経歴や専門性等を踏まえて、適材適所にバランスよく配置いたしました。

県立学校でございますけれども、経営能力や柔軟な発想、強いリーダーシップを有する意欲ある12人の校長を登用し、全県的な視野に立って配置いたしました。また、これまで学校を支えてきた退職教職員を、再任用職員として任用し、これまでの勤務経験を活かし、学校教育に貢献しながら、後継者の育成に当たってもらうよう、その専門性を踏まえた適材適所で配置したところでございます。

資料1ページ、異動者数でございます。

小学校986人、中学校675人、県立学校635人、事務局195人を合わせまして、計2,491人、昨年と比べて209人の増となっております、過去10年間では4番目の異動規模となります。全体の退職者は357人、昨年と比べて155人の増、新規採用者数は329人でございます、昨年より52人増となっております。退職が出る年と出ない年があるということで、2ヶ年度で見ますと、退職者数合計559人に対しまして、新規採用者数606人ということで新規採用者の確保に努めたところでございます。

定年延長についてでございます。職員の定年が令和5年4月から2年に1歳ずつ段階的に引き上げられて、令和13年4月に65歳になります。令和6年度末に60歳を迎えた教職員266人のうち、93人が定年前に今年度末で退職することになっております。

資料2ページをお願いいたします。

次に学校関係の異動の主な特徴でございます。はじめに学校数ですけれども昨年度と同数、休校であった丸亀市立の広島小学校、広島中学校が開校となりますけれども、休校状態は学校数に計上しておりますので、同数のままということになります。県立学校については、同じく39校ということです。休校等の状況については資料の2ページに載せてございます。

次に管理職等の登用についてであります。管理職等に、優れたマネジメント能力や柔軟な発想、リーダーシップを有する意欲ある人材を登用して、各学校の教育力の向上を図るための人材配置を行ったところです。

3ページをお願いします。

小中学校長の登用者数、昨年から2人減の42人、県立学校長の登用者数、昨年から2人増の12人となっております。

次に副校長、高松市立下笠居中学校の五色台分校で1人の登用がございます。

次に教頭の登用者数です。小中学校では昨年に比べて10人増の61人、県立学校では昨年に比べて3人増の19人となっております。

次に主幹教諭です。登用者数については、小中学校は昨年に比べ3人増の13人、県立学校では、2人減の4人となっております。

指導教諭につきましては、小中学校70校に配置しておりまして、昨年より6人増の15人を登用することとしています。

次に女性管理職の状況です。女性校長数につきましては、小中学校では昨年に比べ8人増の62人、県立学校は昨年と同じ6人となっております。

次に女性副校長、教頭数です。小中学校は昨年より10人増の122人、県立学校は昨年より2人増の17人となっております。

4ページをお願いします。

女性管理職の割合、30.0%から7年4月は33.1%となっております。

次に交流人事についてです。公立小中学校において、教育水準の維持向上や教員としての視野を広げ、資質能力の向上を図る観点から、管理職を含めた教職員の小中学校間の異動や香川大学教育学部附属学校、県立学校などとの人事交流を行っております。

小学校と中学校の間で異動する小中間異動者は49人、昨年と比べて16人の増、県立学校との交流者は10人で、昨年と比べて7人増となっております。

香川大学教育学部の附属学校との人事交流者は34人、昨年と比べて6人の増となっております。香川大学教育学部との交流者は2人で同じでございます。県外との交流者はございません。

県立学校においても同様の観点から、県立学校の校種間異動や、県立学校と高松第一高等学校、香川大学教育学部附属特別支援学校及び小中学校との人事交流を行っております。

県立高校と県立特別支援学校間の異動者は15人、昨年と比べて9人の減、香川大学教育学部附属特別支援学校との交流者は6人、昨年と比較し1人の増、人事の一体化を行っております高松第一高等学校との交流者は9人で、昨年と比べて2人の増となっております。

次に、特別支援教育の推進として、発達障害を対象とする通級指導教室の計画的な設置に努め、小中学校45校に小中学校県費負担教職員を配置支援するとともに、高等学校2校、特別支援学校1校に教員を配置し、通級指導教室を設置してまいりました。

令和7年度は新たに小学校4校、中学校1校、県立学校2校の計7校に設置することとし、教員を増配置しております。

最後に事務局の関係です。令和7年2月に県立アリーナが供用開始されました。新県立体育館整備推進総室及び新県立体育館整備推進課を廃止し、供用開始直後の管理運営等を行うために、保健体育課の課内室として県立アリーナ管理運営室を設置いたします。

以上が令和7年4月1日付けの教職員異動の概要でございます。よろしくお願いいたします。

司会)

それではご質問等ございましたらお願いいたします。

記者)

女性管理職の割合についてなんですけれども、33.1%は過去最高ですか。

教育長)

記録のある平成27年度以降で比較しますと過去最高ということでございます。

記者)

なんで最高になったのですか。

教育長)

女性登用という趣旨もございますけれども、最近では女性比率も上がってきていますし、意欲とかマネジメント能力がある方も当然増えてきているわけでございますので、そういう観点から登用しているという、その結果でございます。

記者)

今までは、マネジメント能力がなかったということですか。

教育長)

そういうことではなくて、各種研修をいろいろやっています。それと意欲と能力という点で言えば、意欲がある方も増えてこれているということです。

記者)

最後に確認なんですけれども、今回209人増というのは退職者の数が多いということになるんですか。

教育長)

退職者が多かったので、延べとして異動規模が大きかったということです。

司会)

他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、教育長記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。